

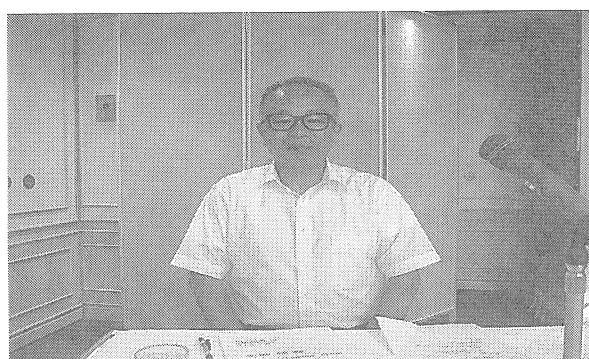
かながわ保育

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
一般社団法人
神奈川県保育会
発行人
萩原敬三
題字
故内山岩太郎筆

平成二十七年七月二十三日
(木) ホテルキャメロットジ
ヤパンにおいて「県・市町村
児童福祉主管課長と県保育会
委員との連絡協議会」が開催
されました。連絡協議会は、
政令市(横浜市、川崎市、相
模原市)を除く神奈川県次世
代育成課、県各市町村の主管
課長と神奈川県保育会委員の
参加で行われる県保育会主催
の神奈川県独自の協議会です。
まず、萩原理事長の挨拶から
始まり、その後、NPO法人
情報公開クリアランス理事奥
津茂樹氏による「マイナンバ
ー制度と個人情報保護」につ
いて基調講演がありました。

基調講演では、奥津氏から
マイナンバーは平成二十七年
十月以降に、国民一人一人に
割り振られる十二ケタの番号

で、複数の行政機関などにあ
る個人の情報が、同じ人のもの
であることを確認するため
に活用され、来年一月より雇
用保険、医療保険などの社会
保障や確定申告など税の手続
き、法律で定められた事務に
利用されるという。税の届け
出や申告に必要となり、会社
員は勤務先から、自営業者は
税務署から、番号を知らせる
よう求められるという。マイ
ナンバーを使った手続きが広
がれば、行政機関に提出する
書類が減り便利になるという
が、一方で大切な情報をどう
扱うかが問われ、近年、年金
情報が流出するという問題が
あり、ナンバーの管理をどう
するのかが課題だという。個
人情報保護法をきちんと理解
し、取り組んでいかなければ
ならないと思う。まだまだ、
わからない事は実際あるが、
マイナンバーの事を知るいい
機会となりました。講演後、



が始まり標準時間と短時間の
関係がわかりにくい。いろい
ろな面で保護者に理解しても
らうのが大変だった。各市町
村も保育現場に寄り添い頑張
っているのがわかった。など
まだまだ課題は沢山あるが、
貴重な報告結果を聞けて有意
義な時間となりました。最後
に、富田相談役より、子ども
達に寄り添い温かいまなざし
で接する大きさのお話をわか
りやすくしてくださりほつと
できる時間を過ごすことができ
ました。第一部終了後、第
二部の情報交換会が和やかに
行われ、閉会となりました。



県・市町村児童福祉主管課長と 県保育会委員との連絡協議会

第五十六回 関東ブロック保育研究大会

夏空がまぶしい季節を迎えた

第五十六回関東ブロック保育

研究大会が、平成二十七年七

月二日～三日に静岡県コンベ

ンションアーツセンター（グ

ランシップ）で「すべての人

が子どもと子育てに関わりを

持つ社会の実現をめざして」

をメインテーマに開催されました。

関東地区各地域より千

名を超える参加者で盛大に執

り行われました。

次期開催地神奈川県からは、

大会開催の事前勉強として百

三十名超の参加がありました。

「大道芸スターズFro.m静

岡」によるオムニバスショー

が会場を沸かせました。定刻

になり、開会式が進行され、

静岡県保育所連合会会长後藤

弘明様による「歓迎のことば」

の後、「花のおさなごの齊唱」、

保育関係物故者への「黙祷」、

「児童憲章」の朗読が行われました。

続いて、主催者を代表して

静岡県知事川勝平太様と関東

ブロック保育協議会会长奥村

尚三様の両名より「大会趣旨」のあいさつがなされました。

開催都市として静岡市長田辺信弘様よりあいさつを頂戴致しました。また多くの来賓の皆様がご臨席され、来賓の皆様を代表して全国保育協議会会長万田康様より「祝辞を頂戴し、来賓・主催者紹介がされました。その後、保育事業に貢献された方への感謝状贈呈が行われ、最後に静岡県保育所連合会副会長神野博行様による「大会決議宣言」により開会式が閉会されました。

次期開催地あいさつが行われました。神奈川県からは藤沢市保育士研究会「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて」～一人一人に合った支援の実践～、伊勢原市

保育内容研究会「子育ち子育

て支援のネットワークの中で

の保育所の役割を發揮する」

～小学校等との連携を深める

～をテーマに二年間に及ぶ研

究成果を発表されました。

いう間に過ぎ、楽しく「講演を聞くことが出来ました。

最後に第五十七回関東ブロ

ック保育研究大会、メインテ

ーマ「子どもたちの幸せの実

現をめざして生きる力育

てる力 支える力」を掲げて

の次期開催地あいさつが行わ

れました。壇上には神奈川県

保育会のゆるキャラ「かなわ

ん」が登場し、広報担当とし

て箱根の魅力を、映像を使い

紹介しました。

映像が終了すると萩原理事

長が大名籠で登場し参加者に

神奈川大会の想いを語られピ

アールをされました。平成

二十八年七月七日（木）～八

日（金）に自然豊かな観光地

箱根の「湯本富士屋ホテル」

をメイン会場に開催することが宣言され多くの皆様のご参加をお待ちしておりますと次期開催地のあいさつを終え初日が終了致しました。

二日目は九つの分科会に

かれ有意義な研究発表が行わ

れました。神奈川県からは藤

沢市保育士研究会「配慮を必

要とする子どもや家庭への支

援にむけて」～一人一人に合

った支援の実践～、伊勢原市

保育内容研究会「子育ち子育

て支援のネットワークの中での

保育所の役割を發揮する」

～小学校等との連携を深める

～をテーマに二年間に及ぶ研

究成果を発表されました。



すべての人が
子どもと子育てに
関わりを持つ
社会の実現をめざして…
箱根でおこなわれます

第57回
関東ブロック保育研究大会

平成28年 7/7(木)～8(金)
湯本富士屋ホテル・箱根湯本周辺

子ども達の幸せの実現をめざして
生きる力 育てる力 支える力

風薫るさわやかな季節の中、第49回神奈川県保育事業大会「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして――」が平成二十七年四月二十五日(土)に神奈川県社会福祉会館にて、開催されました。当団は、県内各地域より大勢の皆様にご参加を頂き盛大に執り行なうことができました。

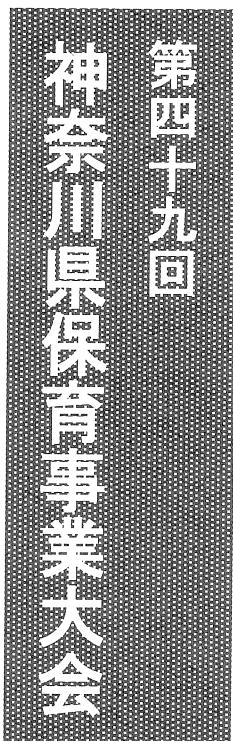
定刻にとなり、宮田副理事長による「開会のことば」の後、「花のおさなご」の齊唱、「児童憲章」の朗読が行われました。

続いて、主催者を代表して萩原敬三理事長より「本大会の趣旨」のあいさつがなされました。

その後、永年勤続者表彰式が行われ、六十三名の表彰者が行われ、永年勤続者表彰式

大会「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして――」が平成二十七年四月二十五日(土)に神奈川県社会福祉会館にて、開催されました。当団は、県内各地域より大勢の皆様にご参加を頂き盛大に執り行なうことができました。

神奈川県保育事業大会は、健やかな成長と発達を保障するため、「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして――」が平成二十七年四月二十五日(土)に神奈川県社会福祉会館にて、開催されました。当団は、県内各地域より大勢の皆様にご参加を頂き盛大に執り行なうことができました。



また、式典には多くの来賓の皆様にご臨席頂きました。

来賓の皆様を代表して神奈

川県民局次世代育成部長石川信之様、神奈川県議会議長向

長海老名市長内野優様、神奈

川県児童福祉審議会委員長松田良昭様、神奈川県保育士養成校施設協会会长横浜女子短期大学学長平野建次様よりそ

れぞれご祝辞を頂戴し、保育士会の原会長による「閉会のことば」により閉会致しました。

休憩を挟み、一般社団法人神奈川県保育会総会が開催され、正会員の出席者及び委任状による議決権の過半数が確認され議事が進行されました。

(一) 報告事項にて(ア)平成二十六年度一般社団法人神奈川県保育会事業報告及び決算について、(イ)平成二十六年度会計監査報告についての議事が審議され、すべて承認されました。また、同時に神奈川県保育士会総会が開催され平成二十六年度事業報告及び決算等の議事が承認され

に賞状と記念品が授与されました。また、昨年に功績ありました叙勲受章者二名、厚生労働大臣表彰受賞者三名、

神奈川県保育賞受賞者一名の栄えある受賞を受けられました方々に記念品の贈呈式が行われました。受賞を受けられました皆様には、心よりお祝いを申し上げますとともに今後後の保育事業での更なるご活躍をご祈念致します。

（グランシップ）で行われます第五十六回関東ブロック保育研究大会（静岡大会）に藤沢市保育士会研究会、伊勢原市保育内容研究会の二グループが選出されました。



たことをご報告致します。

午後からは、三会場に分か

れて有意義な研究発表及び討

議が行われました。

大会終了後には、各地区代

表の企画運営委員にて処理委員会を行ないました。

処理委員会にて平成二十七

年七月一日～三日に静岡県コ

ンベンションアーツセンター

で行われます第五十六回関東ブロック保育研究大会（静岡大会）に藤

沢市保育士会研究会、伊勢原

市保育内容研究会の二グループが選出されました。

まず、藤沢市保育士会研究会は「一人一人に合った支援の実践」という副題のもと、二グループに分かれての研究でした。一つ目は「ちよつと気になる子の支援と理解グループ」です。そこでは、園生活の中で子ども達の気になる行動を挙げ、

「一人一人に合った支援の実践」という副題のもと、二グループに分かれての研究でした。一つ目は「ちよつと気になる行動を起こさせない事例や課題を集め、一日の流れに沿うサポートリストを作りました。そ

こから、日々の保育において、

いかに環境刺激に弱い子ども達が多いかがわかり、その刺激を減らすには、一人一人に合わせ、計算されたタイミングのよ

い支援が必要となります。そして、気になる子が複数いる時は、

第一会場



それぞれタイミングの良い支援を組み立てていく事で問題行動が減り、クラス全体が落ち着くのですということです。また、保護者には、子どもの特性や要因と成果のあつた具体的な支援を伝える事で共通理解を持ち、家庭への支援へ繋げていくということでした。

二つ目は「生活リズムと心と身体を育てる遊びグループ」で、生活リズムを見直し、子どもの特性・発達の課題を捉えた遊びを経験させていくというものです。

保護者に懇談会での保護者向け紙芝居や寸劇などで、生活リズムを啓発する取り組みを行います。そして、保護者が生活を見直したことから、子どもの気になる姿に変化が見られ、さらに、その子ども特性に合わせた遊びを実践することで、その子の成長を促し、それは、クラスの子ども達全員にも良い刺激をもたらします。この二つの研究から、配慮を必要とする子どもには安心できる環境を整えること、保護者には様々な背景

を理解し、その保護者に合った伝え方を見抜くこと、また、保護者に生活リズムの大切さを再認識してもらう取り組みや子どもの育ちを捉えた遊びの実践などの学びを生かしたことでした。

次に平塚・中郡保育士会保育内容研究会は「ムーブメントを取り入れて」という副題の発表でした。「気になる子」たちの共通点である体使いの悪さに着目し、発達に課題のある子ども達に有効なリハビリテーション療法である「感覚統合」の面からの研究です。それは、あそびの中で子どもがいる感覚を引き出すことを目的としたものです。取り組みとして、なわとびや鉄棒などをムーブメントを取り入れることで、体の動きをスムーズにしていき、成果に導くものです。結果として楽しめる姿です。結果として楽しめる姿になりました。そして、保護者に頑張っている姿を具体的に伝え、子どもの成長を共に喜び合える関わりをしていきました。

伊勢原市保育協議会保育内容研究会は「子育ち子育て支援のネットワークの中での保育所の役割を發揮する」小学校等との連携を深める」と題して発表を行いました。平成二十五年度から二年間研究を行い、一年目の取り組みでは、小学校・地域の子育て家庭・近隣企業などで地域を基盤としたネットワークの中で保育所との連携があるのかを調べ考察を行いました。

①小学校との連携では、一年生との交流、小学校運動会への参加、あいさつ運動の参加、保育園行事への招待など、②地域（企業・お年寄り等）と保育園児との連携では、どんど焼き、魚の解体ショー、近隣企業との交流、お年寄りとの交流、保育クラブ、保育コミュニケーター、子育てクラブ、子育てひろば、なかよしルームなど様々な連携が行われています。そして二年目の取り組みでは、「小学校と保育所との連携」を重点に置き研究を行



第二会場

第二会場では、第五十六回関東ブロック保育研究大会の第六分科会「子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク」というテーマに沿って、伊勢原市保育協議会保育内容研究会・綾瀬市つ

つた。小学校へ入学する際の不安が軽減するためには、どのような保育を取り入れていいか、就学前の取り組みに着目し、就学に向けて小学校側の意見も参考にできるよう市内の小学校十校にアンケート調査「就学前準備のためのアンケート」を依頼した。アンケート内容は、①生活習慣について、九項目、②学習準備について、六項目、③人間関係について、五項目、④その他について、六項目を設定して、五段階（五・四・三・二・一）で重要度をチェックして回答をして頂いた。アンケート結果を集計して特に重要とされた二項目について着目し、市内十一ヵ所の保育所で取り組める保育を考え実践した。

(一) 文字を書いたり、話を聞く際、長時間椅子に座れない子どもが多くいる。その原因を調査した結果、姿勢を保つための筋力とバランス感覚が不足していることが解った。そこで「落ち置いて椅子に座ることが出来る」ためには、

どうすべきかを話し合い、AとBの運動を十一ヵ所の保育所で実施しました。A・片足立ちバランスは「両手を広げて片足で立つ。子どもたちが楽しく取り組めるように、なじみのある歌に合わせて左右交互に行う。」B・足脚体操は「足の内側をもう片方の足の裏でこする。内側のくるぶしに土踏まずを当て、一〇セント程度上方にこすり上げたら、元の位置に戻す。両方の足でそれぞれ四回程度行う。」を実践した。(その結果)、初めはバランスを崩してすぐに足をついてしまう子どもや体勢の悪い子どもも多くいましたが、繰り返す取り組むこと足をついてしまう子どもや体勢の悪い子どもも多くいましたが、繰り返す取り組むこと

により全体の八十五パーセントの子どもができるようになつたと報告された。

(二) 和式トイレの存在を知らない子どもや使えない子どもが多いことが解り、「和式トイレを使い、自分で後始末をする。」に重点を置き、和式トイレ体操を取り入れ、各保育所で実践した。和式トイレ体操とは「足を二十八センチ程

度(和式トイレの幅)に開いて立ち、そのままゆっくりしがみ一〇数えてから立ち上がる。子どもが体操を行いやすいように、床に画用紙で作った和式トイレや和式トイレの幅に合わせてテープを貼り、腕で膝を抱えるように行う。「足の内側をもう片方の足の裏でこする。内側のくるぶしに土踏まずを当て、一〇セント程度上方にこすり上げたら、元の位置に戻す。両方の足でそれぞれ四回程度行う。」

〈その結果〉しゃがんでみるとはじめはお尻をついてバランスを崩す子が多く、出来る子どもは五〇パーセントだったが、一〇秒、二〇秒と時間を伸ばし練習を繰り返し取り組むうちに出来る子どもが八〇パーセントに増えた。また、進んで和式トイレを使おうとする子どもが増えた。

今回の研究を通して、就学に向けて生活習慣を定着させる工夫として、時計の意識付け、正しい姿勢を意識付ける、言葉による意志の疎通を図る、小学校での生活の見通しを持ちやすくする等、就学前に出ることを日々の保育の中に取り入れ様々な体操や手作り時計やパネルを活用して、小学校がどのような所か目で見

て分かるように伝えることで就学に向けて期待が膨らんだように感じます。今後も子ども達の生活習慣について考え、より小学校との連携を深めていき入学する際の不安を軽減するための保育を取り入れ、子ども達が安心して就学できるような保育を進めて行きました。



綾瀬市つぼみ保育園からは、「子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク一人一人の成長を連続的にとらえる」と題して発表を行いました。つぼみ保育園での取り組みでは、小学校との連携として教育委員会との打ち合わせを行い、支援の必要な子や就学前検診で問題や相談のあった子どもについての話し合いを行い、社会体験による職場訪問、運動会や生活発表会等への行事に参加する、学校見学の交流会などを行い連携している。また支援連携として、要保護家庭の家庭環境等の共有化を図たり、授業参観への参加や外国籍の親支援を行っている。その結果として、これらの小学校との連携は日頃からの関係を作ることで連携がスマーズになり、親の安心や子どもの連続発達の見守りになることが解った。

支援ネットワークについては、要保護児童や家庭環境等の问题是市や児童相談所などの関係機関との連携を取り合っていきたいと発言された。

第三会場では、議長のつるまきこども園(秦野市)の源田和代園長先生、幹事の村上晴美園長先生(逗子市湘南保育園)、記録係の長谷川倫子先生(横須賀市富士保育園)と森野彌先生(海老名市勝瀬保育園)のもと、フリーテーマ発表がありました。トップバッタク一人一人の成長を連続的にとらえる」と題して発表を行いました。つぼみ保育園では、茅ヶ崎市保育士会内容研究会の香川保育園の佐藤ひろ美先生、なぎさ保育園の澤田麻抹依先生、鶴が台保育園

連携として教育委員会との打ち合わせを行い、支援の必要な子や就学前検診で問題や相談のあった子どもについての話し合いを行い、社会体験による職場訪問、運動会や生活発表会等への行事に参加する、学校見学の交流会などを行い連携している。また支援連携として、要保護家庭の家庭環境等の共有化を図たり、授業参観への参加や外国籍の親支援を行っている。その結果として、これらの中学校との連携は日頃からの関係を作ることで連携がスマーズになり、親の安心や子どもの連続発達の見守りになることが解った。

支援ネットワークについては、要保護児童や家庭環境等の问题是市や児童相談所などの関係機関との連携を取り合っていきたいと発言された。

結果として、子どもの問題と支援を考える上で地域の協力と援助が必要であり、園全体で取り組む姿勢と地域や行政に訴え共に協働することが解決へ繋がることが解った。また、子どもの生活は日々続いていることから小学校との連携も大変重要である。まとめでは、日頃から保育所の機能を地域に広げていくことも大切なものであり、常に地域や小学校との連携を持つ関係作りを心掛けて生活していく必要性を感じた。そして保育者一人ひとりが取り組む姿勢と見極める力をつけていき子ども生活の幸せと安全を守つていきたないと発表を終えられました。



ストレスマネジメント研修

「管理者に求められるメンタルヘルス対策」 ～これまでの保育現場～



平成二十七年六月二十三日
(火) 横浜市の産業貿易センターにおいて「ストレスマネジメント研修」が開催されました。

保育所の現状は、社会環境の変動、保育の質の向上、様々な保護者の対応など課題が多くある中で、管理者は職員一人ひとりに気を配りながら保育所を運営しなければならない大変な時代になつています。

保育所による、明日からでも使える具体的かつ実践的で、より効果的なスキルアップのためのメンタルヘルスを説くと共に知識だけに偏ることなく、

また、参加者同士でのロールプレイをはじめた、より明快でわかりやすい研修となりました。

まず、「どんなことがストレスになっていると思いますか?」と隣の人との意見交換から始まり、役割を決めての声かけと面談をロールプレイしたり、グループディスカッショントをし、事例について感じたこと、よかつたと感じる部分、効果があると思ったことなど振り返りしながらコミュニケーションを取る。

早期対応・早期ケアは、ストレスの受け止め方に個人差があるということです。不調のイエローサインを知つておくこと、対応の基本をおさえておくことも大切です。そして、日常的に、自分が出来るることから実践していきます。

職場にありがちなケースを基に、まずは自分ならどう対応するのかを考え、今回の情報交換の中で対処の幅を広げ

今回は、経験豊富なユーモアたっぷりのウェルリンク株式会社・メンタルヘルス研究所コンサルタント小山美和講師による、明日からでも使える

ニケーションの頻度と質の向上をはかりながらのポイント解説は、理解しやすく行動につながりやすかったです。

また、気になるラインによるケアのステップとして、常日頃からの「気配り」、変化への「気づき」、日常的な「声かけ」+「聴く」と言う心掛け、相手に心配を伝えることが前提となります。

公平な給付と負担の実現を目的にマイナンバー（個人番号）制度が来年の平成二十八年一月からスタートするのに伴い皆様の施設（個人番号関係事務実施者）では準備が着々とすすんでいると思います。

施設では従事者にマイナンバーカードの説明を行い就業規則等の変更を速やかに行うことが必要になるかと思います。

皆様、新年を迎えるまでに頑張りましょう。

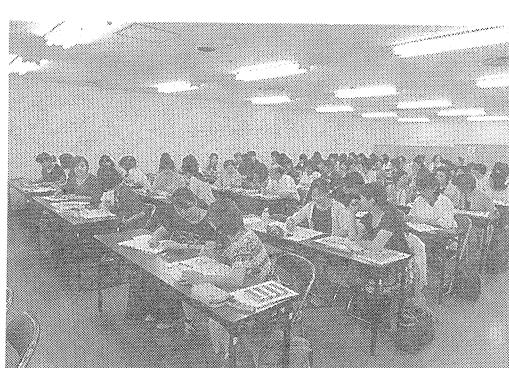
ストレスマネジメント研修は、ひと言が人の心を傷つける。たつたひと言が人の心を暖める。「言葉の意味のとらえかたを違う視点から見るだけで、いろいろな事が変わっていくと思いました。モチベーションアップのために、ねぎらいの言葉、現在のこととに焦点をつながらやすかつたです。

時間が過ぎ、気づかされること多々ありました。有意義な時間をありがとうございました。
「ありがとうございます」といいました。

いい」とにも重点をおいていたいと思います。「たつたひと言が人の心を傷つける。たつたひと言が人の心を暖める。」「言葉の意味のとらえかたを違う視点から見るだけで、いろいろな事が変わっていく

と思いました。モチベーションアップのために、ねぎらいの言葉、現在のこととに焦点をつながらやすかつたです。

時間が過ぎ、気づかされること多々ありました。有意義な時間をありがとうございました。
「ありがとうございます」といいました。



編集後記

よくすることと、ストレス反応を解消するための具体的な行動をおこすことが上手に付きました。参加型の研修といいました。

時間が過ぎ、気づかされること多々ありました。有意義な時間をありがとうございました。
「ありがとうございます」といいました。

いい」とにも重点をおいていたいと思います。「たつたひと言が人の心を傷つける。たつたひと言が人の心を暖める。」「言葉の意味のとらえかたを違う視点から見るだけで、いろいろな事が変わっていく

と思いました。モチベーションアップのために、ねぎらいの言葉、現在のこととに焦点をつながらやすかつたです。

時間が過ぎ、気づかされること多々ありました。有意義な時間をありがとうございました。
「ありがとうございます」といいました。

いい」とにも重点をおいていたいと思います。「たつたひと言が人の心を傷つける。たつたひと言が人の心を暖める。」「言葉の意味のとらえかたを違う視点から見るだけで、いろいろな事が変わっていく

と思いました。モチベーションアップのために、ねぎらいの言葉、現在のこととに焦点をつながらやすかつたです。

時間が過ぎ、気づかされること多々ありました。有意義な時間をありがとうございました。
「ありがとうございます」といいました。

いい」とにも重点をおいていたいと思います。「たつたひと言が人の心を傷つける。たつたひと言が人の心を暖める。」「言葉の意味のとらえかたを違う視点から見るだけで、いろいろな事が変わっていく

と思いました。モチベーションアップのために、ねぎらいの言葉、現在のこととに焦点をつながらやすかつたです。

時間が過ぎ、気づかされること多々ありました。有意義な時間をありがとうございました。
「ありがとうございます」といいました。

いい」とにも重点をおいていたいと思います。「たつたひと言が人の心を傷つける。たつたひと言が人の心を暖める。」「言葉の意味のとらえかたを違う視点から見るだけで、いろいろな事が変わっていく

と思いました。モチベーションアップのために、ねぎらいの言葉、現在のこととに焦点をつながらやすかつたです。

時間が過ぎ、気づかること